

# G

グランシップマガジン

[ジー] vol.27

GRANSHIP magazine  
SUMMER 2005

SPECIAL - 1

## ただ今、募集中!

ハガキで、電話で。コレ、全部参加できます。

次代を創る顔

演出家 仲田 恭子

しずおかアーティスト・リレー

美術家 柳澤 紀子

SERIES わが羅針 第27回

## 谷 啓

SPECIAL - 2

## 「木」と遊ぶ。2005年、夏。

SPECIAL - 3

## 戦後60年。

戦争を知らない子どもたち、大人たちへ。

村松友視の文化漫遊⑬

グランシップ ベンクラブ

多々良 栄里 (フォトグラファー)



、全部参加できます。

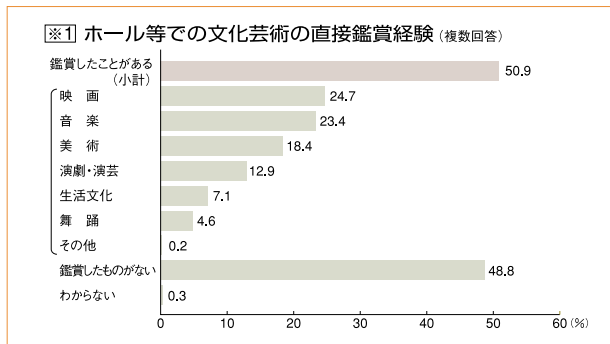
# 募集中!

## 世論調査に見る ニッポンの文化体験事情。

たとえば、この一年の間に、ハリウッドの俳優陣をはじめ、世界的ミュージシャン、名だたる劇団がどれほど日本にやってきたことだろう。世界は格段に近くなり、それにつれて、映画や音楽、舞台への興味は確実に広がったと思われる。

さて、ここで質問がある。この二年、果たしてどれぐらいの人が、映画館やホール、美術館などに直接足を運び、プロの公演や作品を見たのだろうか。

※1 内閣府  
大臣官房  
政府広報  
室が、平成15年11月に実施した「文化に関する世論調査」によると、前述の質問



に「YES」と答えた人は、約半分。これを少ないと読むか、多いと判断するか。く

注目してほしい。首都圏に向かなくても、ビッグプログラムを鑑賞できる機会がある。あるいは世界中のどこにもない、ここのだけのプログラムに出会えるチャンスがある。それも手頃な価格で、グランシップならではのプラスαの企画付きのこともある。それだけじゃない。事前にハガキや電話で申し込むことによって、まるごと無料で楽しめるということだ。たつてある。というわけで、今回は、そんなグランシップ発の「うれしい企画」の特集である。

## この指、とまれ! 県民の特権、「コ」にあり。

グランシップは、グランシップ↓県民の一方通行型のサービスを目指してはいない。ワンウェイよりもツーウェイ、できればさらにフィードバックしていくというような働きかけができればいいと考えている。一つ一つの事業が点だとすれば、それが線になり、面になっていく。そのための拠点でありたい。

そうした思いを胸に開館以来、グランシップでは、さまざまな層に向けて、多種多様な呼びかけを展開してきた。幾つか例にあげて振り返ってみよう。

たとえば、アートプロジェクト「Sing」は、次代のクリエイター発掘を目的とし、若い世代に参加を募ったオリジナル・コ



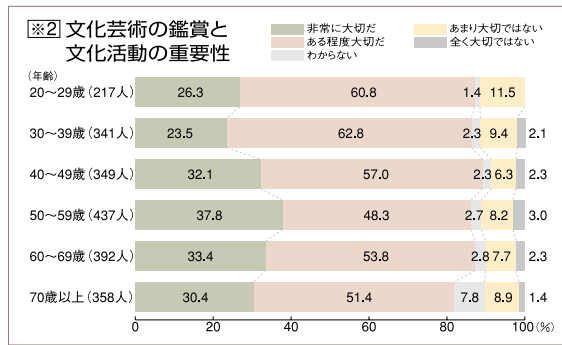
ハガキで、電話で。コレ

# ただ今、

ちなみに「NO」と答えた人々は、その理由として、「時間がなかなかとれない」「関心がない」に次いで、「近くでやっていないから」「入場料、交通費など費用がかかり過ぎるから」を上位に挙げている。では、そもそも「それらを鑑賞したい」という欲求はあるのかといえは、80%以上の人が「ある」と答えている。つまり時間やお金など、いろいろな条件が揃えば、出かけていきたいのはやまやま、ということなのだろう。さらに日々の生活の中で、

文化芸術を鑑賞したり、自ら文化活動を行うことは、86%以上もの人が「大切だ」と考えていることから、大切なことと思いな

がらも、諸事情から後まわしになっている。それが正直なところなのかもしれない。だとしたら、である。静岡県の人々は、ぜひ、身近なグランシップが発する情報に



ンペティション。アーティスト日比野克彦氏を中心とした呼びかけに、県内外から数多くが参加。そして、ここで生まれたネットワークは、貴重な財産となった。また、プロと県民とのコラボレーションとしては、県民オペラ「蝶々夫人」、動く音楽パフォーマンス「Moving Music Express」、第九コンサートなど。これまで体何人の県民がグランシップのステージに立ったことだろう。

体験モノとしては、ほかに「講談教室」や「能楽鑑賞教室」など。これらはふだんなかなか覗けない世界を体験できることから、毎回人気の高いプログラムだ。一方、チケットを購入した者だけが得られるオマケ企画というのものもある。たとえば、展覧会にちなんだ「ギャラリートーク」や「ワークショップ」もその二つ。演劇プログラムでは、出演者による「演劇ワークショップ」、オペラなどでは「プレセミナー」や「バックステージツアー」などをプラス。せっかくの機会をより深く楽しむためにも、今後もぜひ、有効に利用していただきたい。

また、なかには1回きりではなく、2回、3回と回を重ねていくものもある。今年も、今年もタメでも、来年こそ…。そんな前向きなキモチでプログラムをチェックしていただければうれしい。



①能楽鑑賞教室 2000.8



たとえば、過去にこんな企画が!

②源氏物語「和に親しむ」2003.11

敷居が高そう。難しそう。そんな世界は、いっそ自分の肉体を通して体験するのが一番の近道。とはいえ、カンタンに入門できないのも、その道ならではの。グランシップが毎年開催している「能楽鑑賞教室」講談教室は、古典芸能の世界を体験しつつ、学びつつ、身近に楽しもうというプログラム。観世流能楽師や静岡県出身の講談師、宝井馬琴の指導が直接受けられるとあって、毎年人気の企画だ。

# 「初めて」を体験しよう!

敷居が高い世界も、グランシップなら即入門。

今後、募集中の企画はこちら!



## D 8/16<sup>⑧</sup>・17<sup>⑨</sup> もっと木を知るためのワークショップ

関連情報P14

1. 美しいカタチをつくろう(こども編/約2時間/定員20名)
  2. 美しいカタチをつくろう(おとな編/約2時間/定員20名)
  3. 秘密の箱をつくろう(親子参加歓迎/定員20名)
- 時間 1: 8/16(火) 10:30~  
2: 8/16(火) 14:00~  
3: 8/17(水) 10:30~16:00  
■参加費 小~大学生 500円 一般 1,000円 (展覧会チケット付)



## E 11/6<sup>⑥</sup> 申込8/1(月)~10/6(木) 宝井馬琴の家族でたのしむ講談教室 其ノ三

- 講談の歴史や張り扇の使い方、東海道五十三次、静岡の宿場の話まで。最後には本物の講談にも挑戦!
- 14:00開演  
■11階会議ホール・風  
■入場無料【事前申込制】

①静岡県100年音楽祭 2000.12



たとえば、過去にこんな企画が!

②第2回「蝶々夫人」2005.3

今は亡き野村万乃丞プロデュースの「真伎楽」。県民を含む日本アジアの出演者が伎楽面や楽器を手に大ホール・海を所狭しと舞い躍り、観衆を圧倒。今年、第2回が上演された県民オペラ「蝶々夫人」では、毎回100名を超える県民が参加。長期にわたり行われる練習のための施設提供が可能な点も、グランシップの魅力。ステージに立つ喜び、充実感、達成感のはかりしれない。

# いつもの客席から、ときには舞台の上へ。 ステージに立とう!

今後、募集中の企画はこちら!



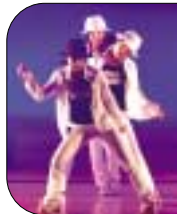
## A 11/13<sup>⑨</sup> 9/20(火)締切 関連情報P24 グランシップ&静響 ヤングオーケストラ塾

- プロのオーケストラと演奏するチャンス!4回の練習を経て、シベリウスの交響詩「フィンランディア」作品26をステージで披露しよう。
- 練習日 10/22(土)・29(土)・11/5(土)・12(土)  
■本番 11/13(日)  
■参加費(各回) 7,000円(コンサートチケット代含む)



## B 8/13<sup>⑧</sup> 8/10(木)締切 自由演奏会 in グランシップ

- 楽器を楽しみたい人なら、誰でも歓迎。自分の好きな楽器を持ってグランシップに集合!その日のうちにコンサートを開こう。
- 10:00~18:00 ■大ホール・海  
■参加料/中学生以上500円 ※小学生以下と見学・鑑賞のみは無料。  
■HP参照 <http://jes.ne.nu/>



## C 8/20<sup>⑧</sup>・21<sup>⑥</sup> 6/30(木)締切 おとみち2005 踊れ!夏祭り

- 2005年、最もクールなチームは?昨夏、熱いダンスバトルを繰り広げた「ダンスショーケース」が今年もやってくる!キッズ部門、アダルト部門で募集中。
- オーディション 7/17(日) 中ホール・大地(観覧無料)  
■公演 8/20(土)・21(日) 15:00開演 大ホール・海

①池宮彰一郎「忠臣蔵、私の新しい発見」1999.7



②ジェームス三木「主役の条件〜葵・徳川三代をめぐる」1999.10

NHKの大河ドラマなど、時代の風を受けたグランシップ発の文化講演会。具体的な史実や時代考証によってひととかれる話は、まさに「事実が小説よりも奇なり」の言葉通り。ときにはゆったり腰を落ち着けて、過去の事実に向き合い、その時代、その瞬間を疑似体験するのもいい。無料で開催されることが多いので、ぜひ、幅広い層に気軽に参加してほしい。

## 歴史に耳を傾けたり。興味を広げたり。 歴史に学ぼう！

たとえば、過去にこんな企画が！

今後、募集中の  
企画はこちら！



NHKスペシャル「ドキュメント太平洋戦争」より

8/13⑨ 14⑩ 7/20(水)締切

### グランシップ・戦後60年講演会

関連情報P20～

- 8/13 第1部 「太平洋戦争とわたし」 辺見じゅん(作家)  
第2部 「ドキュメント太平洋戦争」を語る 中田整一(大正大学教授)  
辺見じゅん(作家) 山本 肇(グランシップ館長)
- 8/14 第1部 「モンテルパの夜はふけて」 中田整一(大正大学教授)  
第2部 「レンズ越しに見た戦後風景」  
大竹省二(写真家) 杉浦圭子(NHKチーフアナウンサー)
- 13:00開場 13:30開演 ■会議ホール・風 ■入場無料【事前申込制】

①ひびのこづえ「テロメラーゼ展」ワークショップ 2001.8



②写真展「地球を生きる子どもたち」トーク&ワークショップ 2005.4

この春、公開の写真展「地球を生きる子どもたち」。この開催に合わせて、写真家、写真評論家によるトークやワークショップをはじめ、デジカメ講座やテーマにちなんだ絵本原画展など、さまざまな年代に向けたプログラムを展開。一方、美術展などでは、これまでにアーティスト自身による解説やワークショップがたびたび開かれ、専門学校生たちがグループで訪れるなど、今やそれらは定番化しつつある。

## 創作世界を知る。インスパイアされる。 作品を深く味わおう！

たとえば、過去にこんな企画が！

今後、募集中の  
企画はこちら！



11/27⑩ 申込 9/1(木)～10/31(月)

### 2005年 しずおか連詩の会

「しずおか連詩の会」がこの秋、再びスタート。詩人たちによる創作連詩発表の席へ

■13:30開演 ■会議ホール・風 ■入場無料【事前申込制】



①ヴェルサイユの祝祭～プレセミナー 2004.1



たとえば、過去にこんな企画が!



②子供のためのシェイクスピア「ハムレット」ワークショップ 2004.8

# 舞台をもっと楽しもう!

ステージのウラには楽しみが隠れてる。

深く知れば、深く楽しめる。とくに初心者には、ときとして最適なエスコートが必要だ。…というわけで、グランシップでは、出演者の協力により、身体を使った表現などをおしえる「演劇ワークショップ」をはじめ、オペラなどでは、事前に物語や背景を解説する「プレセミナー」、ふだんは見ることができない舞台裏を案内する「バックステージアー」を開催。こうしたオマケは今後も要チェックだ。

①グランボヤージュ「Sing' 99」(若手クリエイター育成事業)1999.10



たとえば、過去にこんな企画が!



②第2回静岡の魅力フォトコンテスト 2002.7(入賞作品)

# 自分のウデを試そう!

登竜門としてのグランシップ。

グランシップは、自分の才能やウデを試す場としても活用できる。日比野克彦氏をはじめ、過去には藤井フミヤ氏らを迎えて開催してきた「Sing' 99」は、これまでに多くの才能に出会い、新しい道をつくってきた。また、「静岡の魅力フォトコンテスト」は、今年3度目の締切を間もなく迎える。地域の文化団体の顕彰を通して、活動をバックアップするのもグランシップの大事な役目の一つである。

今後、募集中の企画はこちら!

## 応募&問合せについて

- A D** 電話で TEL054-203-5714  
(財) 静岡県文化財団企画制作課
- B** 電話で TEL055-933-3065 (伊藤)
- C** 電話かFAXでエントリーシートを請求。  
TEL054-284-7014 FAX054-284-6330  
〒422-8061 静岡市駿河区森下町3-6 (株) エイエイビー内  
「おとみち2005ダンスショーケース」応募事務局
- E F G** 往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数(4名まで。ただし、**G** は、8/13(土)・8/14(日)のいずれかまたは両日、2名まで。)を明記(返信ハガキにも住所、氏名を必ず明記)の上、下記あて送付を。応募多数の場合は抽選。結果は返信ハガキにて通知。  
■あて先/〒422-8005静岡市駿河区池田79-4  
グランシップ「○○○○(プログラム名を記入)」係  
■問合せ/TEL054-203-5714  
(財) 静岡県文化財団企画制作課
- H** 電話かFAXで応募要項・応募票を請求。応募方法は応募要項を参照。  
TEL054-254-8933 FAX054-251-1483  
〒420-0035 静岡市葵区七間町8-20 毎日江崎ビル7階  
(株) ピーエーシー内「フォトコンテスト事務局」



## H 6/30<sup>◎</sup> 応募締切(当日消印有効) 第3回 静岡の魅力 フォトコンテスト 2005

### 募集テーマ

- 静岡部門/静岡県の風景、名所、自然、祭り、ファッション、人物や浜名湖花博会場で撮影した作品。
- 自由部門/日本各地や世界で撮影された作品でテーマは限定しません。

### 応募規定

- 応募条件/作品は全てプリント、サイズは四つ切り。デジタル作品の場合のサイズはA4又は四つ切り。カラー、モノクロ可。単写真に限る。応募作品は自作で未発表のもの。額装、パネル貼り及び台紙貼り作品不可。静岡部門、自由部門ともデジタル作品可。
- 応募料/一般: 1作品につき2,000円、学生(小・中・高校生・大学生): 1作品につき1,000円 ※学生証のコピー添付。金額は税込表示。応募料分の郵便小為替を作品といっしょに同封してください。



# 「木」と遊ぶ。2005年、夏。

見慣れた「木」の色がある。  
見たことのない「木」のかたちがある。  
思いがけない「木」の面白さがある。  
一つ一つさわって、工夫して、夢中になって。  
子どもたちがイキイキと輝く、夏。



親子で遊ぶ  
木とのふれあいワールド

チケット発売中

パート2

8/11(木)~17(水) ●10:00~17:00  
(入場16:30まで)

●6階展示ギャラリー ●入場料 300円



「蓄積のデザイン」を今回の展示会では提案します。近頃は、実材に直接触れて遊ぶということがなくなりつつあるせいか、実際の感触で学びとり、その触覚知を蓄積することが少なくなくなってきているような気がします。単に情報やモノを並び替えてつくるのではなく、自分の手や身体を使って、工夫することによって、何かができあがる、あるいはうまくいく。さらにそうした感触を覚え、それらを蓄積して成長していく——このプロセスが実はとても大事な事なんです。

文部科学省では、その子なりの学びが必要であるといい、「生きる力」を育むことが大切だと指導要領にうたっています。が、まわりを見渡せば、玩具などでも丸や三角、四角といった左右対称でバランスがとれたものばかり。とこ



ろが、脳の創造的なネットワークをつくるためには、0歳から、すべて形が違う自然のモノの中で遊ばせるのがいいといわれます。子どもを河原などで遊ばせると、飽きないで遊びますよね。それ

## 自分の中に生まれてくる面白さ。 それを発見し、蓄積することが大切。

「親子で遊ぶ木とのふれあいワールド」パート2 監修制作

静岡大学教授 杉山 明博



### すぎやま あきひろ

環境造形・モニュメントや街づくりから、木材を中心としたレリーフなど公共環境に新たな造形的な視点を導入する一方、新たな生活実現のための家具、あかり、花器など、インテリアの造形化に取り組む。著作や講演・講習会など多方面で活動。著書に「造る文化・使う文化」ほか。作品に新富士駅駅舎ステンドグラス「時の詩」、富士宮西小学校外壁レリーフ「木々と遊ぶ子供たち」、浜松北高校の木のレリーフ「花はこの世の」ほか。また、木の作品として「棚」シリーズ、「卓」シリーズ、「座のかたち」シリーズなどがある。



は手に取るものがすべて違うから、さわるたびに面白い。だったら、それと同じ状況をつくらうと、この展示会では、遊ぶときにその子なりの工夫ができ、その子なりの遊び方が見つけられる、不均一な形を多く取り入れています。「パート1」で全国を回った際、自分の子どもがこんなにイキイキと遊んでいるところを初めて見た、という感想を多くいただきました。この展示会は、工夫しないとできない、工夫すれば面白くなっていく。そういうメニューばかりです。自分の中に生まれてくる面白さに気づき、自分自身に驚きながら、次の工夫へと移っていくから、面白さがどんどん増していくわけです。そして、それは大人の想像を超えています。学力低下が叫ばれる昨今ですが、1+1が2になることをはやく解くことも大切ですが、今、日本が取り組むべきは、1+1が5になったりマイナス2になったりする学力。それが「生きていく力」につながる、本当の学力なのではないでしょうか。



**形を探そう**

手でさわって、見本と同じ形のを箱から探してみよう。重さや手ざわりの違いが、さあ、わかるかな？



**動物の造形**

カンガルーやゾウなど、木でつくった動物がいっぱい。

**トチの木のトンネル**

大昔はその実が越冬食とされたトチの木。樹齢数百年、直径約120センチのトチの木のトンネルをくぐってみよう。

**「考える」「見る」「遊ぶ」**

入口には、直径1メートル以上の木のトンネルがお出迎え。それをくぐったら、さあ、木の世界へ。

さまざまな木の色、木の香り、木の形と過ごすグランシップ、夏のひととき。アタマとカラダとココロが喜ぶ「ふれあいワールド」へ、いらっしやい。

**木の砂場**

約32,000個の木の玉の砂場が登場。さあ、お風呂のように入ってみよう。

**飾る形を作ろう**

素材や形が違う、いろんな材料を組み合わせて、お気に入りのアクセサリを作ってみよう。

**パズルの木**

切り取られた部分に、昆虫やフルーツ、乗り物などの形をはめてみよう。ちょっと工夫すれば、きつとうまく入るよ。

**香り**

人に安らぎをとどける木の香りは、防虫や殺菌の役割を果たしたり。ヒノキ、スギ、クス、ヒバ、クロモジなど、木によって異なる香りを体験してみよう。

**静岡の匠のコーナー**

静岡の技術が生み出す、現代の家具、小物たち。



指物やくりものなどの匠の技や、マシンやNCルーター（コンピュータ制御による木工用自動切削機）などを使った技術などを用いて、静岡発の新しいデザインを提案。

**木の生活用品たち**

桐下駄や、イタヤカエデで創られた籠、お椀に杓子、木製バットなどの暮らしの道具たち。完成までの工程を通して、手仕事のすばらしさを知ろう。

**組んで作ろう  
ジャングル**

大工さんになったつもりでネジを使って板や丸い棒をつないでみよう。家や机など、工夫しているんな形を作ってみよう。





心の栄養になるプログラムを。

北村 英治 (クラリネット奏者)

5/14のジャズライブに参加。昨年2月に続く2度目の来館。



中ホール・大地は、もともと演奏しやすいホールですが、今回はさらに床に堅いシートを敷いてくださったので、クラリネットが二層響くようになりました。こういうこだわりは、本当に嬉しい。我々の世代は欲張りが多いので、料理でも何でもこうあるべきというこだわりがあるんですね。ところが若い年代は、与えられ過ぎていてから選択に困っている。可哀相な世代

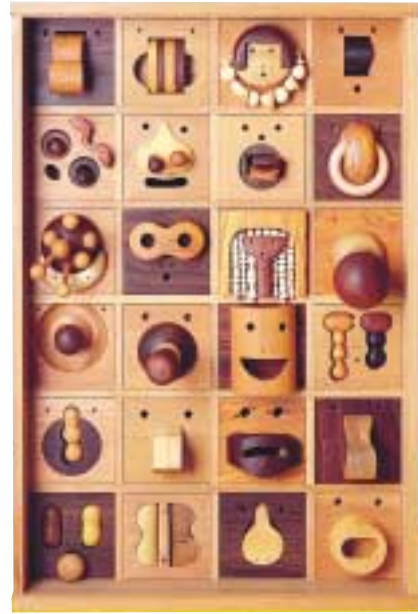
ですよ。楽器を買うにしても、僕らは二生懸命お金を工面して、やっとポロポロの楽器を手に入れたけれど、今はローンで最高級のモノがすぐ買えて、嫌になっちゃいます。薄いんですよ。思い入れが薄いんですよ。ただ、そういう世代でも、例えばグランシップのコンサートに来て、ほんの少しでもよかったと思えば、それが心の栄養になる。もしかしたら何かが見つかるかも

しれない。私は、ステージで自分が作った曲の説明をさせてもらうんですが、説明すると曲の受け取り方が変わるわけです。それが親切というものであり、僕らの使命だと思っております。だとしたら、主催者、ホールの使命は、来たお客さんがまた行こうという気持ちになる、ほんの少しでも心に残るもの、中身のいいものを提供することではないでしょうか。



### コマの造形 競う形・動く形

不思議なまわし方のコマがいっぱい。友達や家族と競いながら、面白い形、面白いまわり方を楽しもう。



### 顔の引き出し箱

さわったり、動かしたりすると、表情が変わる「顔の引き出し箱」。一つ一つ雰囲気異なる引き出しに何を入れるか考えてみるのも面白いよ。



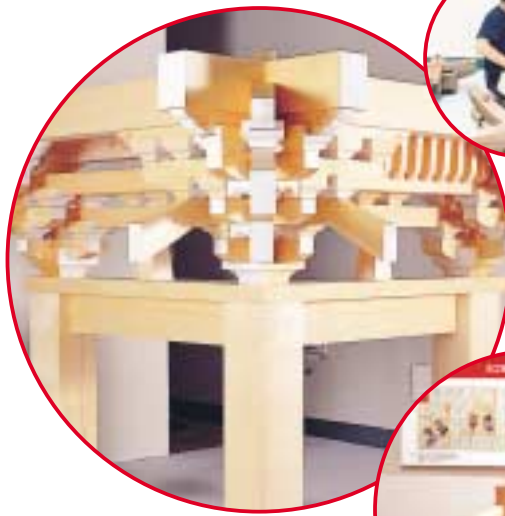
### 木の音を楽しむ

くりぬかれた形、波の形…。たいていみると、いろんな音が聞こえるよ。木ならではのやさらかい音を楽器にして、音楽を作ってみよう。



### ゆれる座で遊ぼう

ゆれるイスの上で寝転んだり、2つを組み合わせたり。友達と座ったり、動く形をうまく使って遊ぼう。



### 宮大工の匠の技

クギを一本も使わず、まさに木組みだけで造りあげる宮大工の技、日本伝承の匠。部材を同じ方向につなぐ「継手」、角度をつけてつなぐ「仕口」の数々を紹介。実際に手に取って組んでみよう。



### もっと木を知るためのワークショップ 申込受付中／要事前申込

1. 美しいカタチをつくろう (こども編/約2時間/定員20名) 8/16 (火) 10:30~粗どりした木片を磨いて、美しいカタチをつくってみよう。
2. 美しいカタチをつくろう (おとな編/約2時間/定員20名) 8/16 (火) 14:00~粗どりした器を磨いて、小物入れに仕上げよう。
3. 秘密の箱をつくろう (親子参加歓迎/定員20名) 8/17 (水) 10:30~16:00 宝物、おもちゃ箱、誰にでも開けられない箱など…秘密の箱をつくろう。

※参加費/小〜大学生 500円 一般 1,000円 (観覧会チケット付) 先着順。定員になり次第締切。TEL054-203-5714 (財) 静岡県文化財団企画制作課

■主催/(財)静岡県文化財団、朝日新聞社 ■後援/静岡県、静岡県教育委員会、静岡県私立幼稚園振興協会、静岡県保育所連合会、静岡県家具工業組合、デザイン静岡 ■監修・制作/杉山明博(静岡大学教育学部教授) ■特別協力/おかげさき世界子ども美術博物館 ■協力/インターネットミュージアム事務局



# 戦後60年。

1970年代、「戦争を知らない子どもたち」という歌が流行した。ところが今や、子どもたちはばかりか、日本の大半の大人たちもまた、実体験としての戦争を知らない。もちろんそれは喜ばしいことだ。しかし、世界のある地域では、戦争の日々しか知らない多くの子どもたちがいる。戦争と難民の世紀は、いったいいつまで続くのだろうか。

戦争を知らない子どもたち、大人たちへ。





おすすめ

## 終戦からの静岡の半世紀を振り返る。 静岡県の暮らしにみる戦後50年

1945-1995  
編集・発行：静岡新聞社（1995年）  
空襲で焦土と化した郷土、破壊された家庭生活…窮乏の中の再出発から半世紀の静岡県民の歩みを貴重な写真で綴っている。

# 終戦からちょうど60年の節目に。



②「6月19日夜、120機のB29の空襲を受け、焼野原と化した静岡市中心街」  
提供：米国大使館

平然と戦争を繰り返すことができるのは、それが日常化しているか、あるいはそれを遠くに眺めているからだという人がいる。平和を口にするのは容易い。けれど、平和がどれほど尊いものであるか、それは戦争を体験した人が誰よりも知っている。その恐ろしさ、空しさ、悲しさ、理不尽さを知らないのは、今の世にあつて、思いのほか、怖いことなのかもしれない。

太平洋戦争の終焉を見た日から、今年でちょうど60年。戦争を知らないというのであれば、せめてこの節目に過去の大戦を知り、そこから学び、戦争という言葉とは無縁の明日を築く手助けをしたいものだ。そして、平和の尊さ、これからの日本のあり方を考え直す機会になればと思うのだが。

## 静岡県が戦場となった日。

静岡県の空に初めてアメリカ力機が現れたのは、1944年6月25日。そして、現在の御前崎市に県下初の一弾、大型焼夷弾が投下された。幸い人命に被害はなかったが、その日から静岡県は太平洋戦争の戦場となったのだ。

翌45年に入ると、県下に空襲警報の発令されない日はなく、とくに多くの軍需工場があつた浜松には、激しい砲弾の雨が降つた。

さらに3月の東京大空襲をはじめ、日本の大都市を次々と焼け野原にしたアメリカ軍は、次なる狙いを中小都市に定める。その対象は、国勢調査による人口に基づき、180の都市を選択。その中に静岡市、浜松市、清水市などがあつた。



③「21年初めごろの静岡市七間町のヤミ市」撮影：山梨龍平氏

# 1945年6月。梅雨の夜の大空襲。

当時、静岡県は6月半ば頃から梅雨に入った。その雨が空襲の際には視界の邪魔になることから、アメリカ軍は、夜間のレーダー爆撃を開始し、その新作戦の幕開けは6月17日。最初の標的となった浜松は、あつという間に焼き払われた。そして、1945年6月19日深夜、約120機のB29がグアム島を飛び立つ。伊豆半島の南から静岡市の上空へ。大型ナバーム弾といわれるM47焼夷弾1万発、さらにM69焼夷弾10万発が次々と投下された。静岡の街が見渡す限りの焦土と化すまで、わずか2時間余り。死者2000名、負傷者も5000名と推定される。不幸なことに、当時、静岡の人々は、大量の焼夷弾攻撃の凄まじさを知らなかつた。防空壕に入つて逃げ遅れたり、消火にあたつたことから、犠牲となつた人も多かつたという。

この2回にわたる空襲の成功に自信を強めたアメリカ力は、8月15日未明までに57もの都市を焼き尽くした。



④「焼跡のバラック建ての住宅と煙。21年の静岡市人宿町付近」撮影：山梨龍平氏

## 意識に深く問う戦後60年企画。

ジョン・F・ケネディは言った。「人類は戦争に休止符を打たなければならぬ。そうでなければ、戦争が人類に休止符を打つことになる」と。ジョン・アボットも言っている。「戦争は破壊の科学である」と。しかし、それらが単に珠玉の名言として鎮座している限りは、何の正義も果たさない。

この節目をもつと一人ひとりの意識に深く語りかける機会とするために、もつとそれを正しく「知る」ために、ドキュメント映像やさまざまな人の話、さまざまな視点をもつて、戦争や戦争がもたらしたものを掘り起こしたいと思う。そのためのグランシップ「戦後60年企画」である。

※写真①②③④は静岡新聞社出版局発行「写真集 静岡県の昭和史」より転載



7月  
29日 金  
30日 土  
31日 日報道史上に残る、あのプログラム再び。  
「ドキュメント太平洋戦争」完全上映。

テレビで初めて戦争（湾岸戦争）が生中継された1991年。その翌年、過去の戦争を現代の視点から検証したドキュメント番組が放送された。足掛け2年にわたり6回シリーズで放映されたそのプログラムこそ、NHKスペシャル『ドキュメント太平洋戦争』である。

ガダルカナル、マリアナ沖海戦、インパール作戦、レイテ決戦などの太平洋戦争における岐路を、エレクトロニクス、情報戦、意思決定システムなど現代の視点から検証。当時、NHK解説主幹として活躍し、この番組の制作に携わった山本肇グランシップ館長は、「60年前の太平洋戦争のいくつかの戦局面をとりあげ分析することによって、現代の日本社会への逆照射とされた」と語った。

報道史に残る、そんな番組の完全上映会が、この夏、グランシップで開催される。しかも当時の制作担当者である中田整一、大正大学教授と山本館長による解説付き。できれば、若い世代にこそ見てほしい貴重な映像だ。

第2集「敵を知らず己を知らず」

第4集「責任なき戦場」

第6集「一億玉砕への道」

## グランシップ・戦後60年講演会

8月  
13日 土  
14日 日

事実を聞く、真実を知る。

終戦記念日直前の2日間。

## 辺見じゅん

早稲田大学文学部卒業。編集者を経て現在、作家・歌人として活躍中。主な著書に、「男たちの大和」（第3回新田次郎文学賞受賞）、「闇の祝祭（歌集）」（第12回現代短歌女流賞受賞）、「収容所から来た遺書」、「秘色」（歌集）など。富山県生まれ。



年末公開予定の映画の原作。

## 男たちの大和

著／辺見じゅん  
出版社／角川春樹事務所  
日本国と運命をともした戦艦「大和」の過酷な戦いと男たちの人生を、丹念に迫力をもって描く、鎮魂の書。新田次郎文学賞受賞作。

おすすめ



## 山本 肇



京都大学法学部卒業、NHK入局。報道局社会部記者、スペシャル番組部チーフプロデューサーを歴任、解説主幹として50本余の大型番組の制作、キャスターを務める。「ドキュメント太平洋戦争」でギャラクシー賞個人賞受賞。現在、グランシップ館長、(財)静岡県文化財団副理事長。静岡市生まれ。

## 中田整一



九州大学法学部卒業、NHK入局。エグゼクティブプロデューサーとして「日本史探訪」「NHK特集」「NHKスペシャル」など、大型ドキュメンタリー番組制作に従事。「戒厳指令交信を傍受せよ〜2・26事件秘録〜」「ドキュメント太平洋戦争」6回シリーズなど多数制作。文化庁芸術祭賞受賞。現在、大正大学教授。熊本県生まれ。

気骨の女・渡辺はま子の生涯  
モンテルパの夜は  
ふけて著／中田整一  
出版社／NHK出版  
フィリピンの捕虜収容所に収容されていたBC級戦犯108名の釈放につくした、昭和の名歌手、渡辺はま子の劇的な人生を鮮烈に描く。未公開資料による、迫真のドキュメンタリー。

おすすめ

終戦の日直前の2日間は、さまざまな立場、さまざまな視点から、戦中・戦後の様子がトククで綴られる。トップを飾る**辺見じゅん氏**は、ノンフィクション作家、女流歌人として知られ、戦後60年記念作品として年末公開予定の『男たちの大和』（出演／反町隆史、中村獅童、仲代達矢ら）の原作者だ。世界最大にして最強の不沈戦艦といわれ、1945年4月、沖繩に向けて出撃するも、米軍艦載機の集中攻撃を浴びて兵士3千名もろとも東シナ海に沈んだ大和。そのごくわずかな生存者と遺族たちへの綿密な取材を経験した氏ならではの話はまさに興味深い。続く初日の第2部で、**辺見氏**、**山本肇館長**とともに、鼎談に参加するのは、大正大学教授で、元NHKスペシャルのエグゼクティブプロデューサー、さらに「昨年、『歴史探訪』2・26事件の謎を追う」の講演の際、グランシップを訪れた**中田整一氏**。三者によるNHKスペシャル「ドキュメント太平洋戦争」の解説、制作秘話などがたっぷり聞けるはずだ。さて、その中田氏は、翌日の第一部にも登場する。講演タイトルは、歌手・渡辺はま子のヒット曲名であり、モンテルパ刑務所への慰問や戦犯釈放の軌跡が現代資料の分析とともに綴られた氏の著書からとったもの。フィリピン・モンテルパ刑務所で日本人戦犯の釈放に尽力した渡辺はま子の生涯を追いながら、その時間軸の中で展開されるフィリピン、アメリカ、日本間の行き詰まる攻防は、緊張の日々を疑似体験させてくれるだろう。また、第2部での登場は、静岡県ゆかりの写真家、**大竹省二氏**と**杉浦圭子**、NHKチーフアナウンサー。戦前、戦後を通して活躍の大竹氏は、ドキュメンタリー

前から整理券を配布（先着順）。上映会場にて、講演会の申し込み受付を行います。（希望者多数の場合は抽選となります。）

でも可）、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・希望人数（2名様まで可）を明記（返信はがきにも郵便番号、住所、氏名を必ず明記）の上、下記宛先までお送りください。

演会）係 ■応募締切：2005年7月20日水必着 ■応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。※抽選結果は、返信はがきで2005年7月25日頃にお知らせします。 ■各日定員：400名

7/29(金)・30(土)・31(日) 入場無料/当日1時間前から整理券配布

## 名番組がふたたび「ドキュメント太平洋戦争」上映会

【上映スケジュール】

7/29(金)	10:00～ 第1集「大日本帝国のアキレス腱」	14:00～
7/30(土)	10:00～ 第3集「エレクトロニクスが戦(いくさ)を制す」	14:00～
7/31(日)	10:00～ 第5集「踏みにじられた南の島」	14:00～

■2階映像ホール



### ドキュメントの文庫版。 「太平洋戦争 日本の敗因」(全6巻)

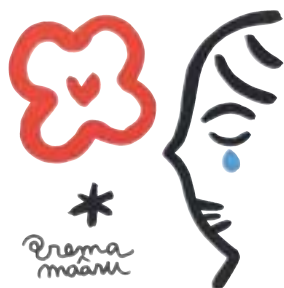
編者/NHK取材班 出版社/角川書店  
NHKスペシャル「ドキュメント太平洋戦争」の番組の文庫版。第1巻から第6巻に付けられたタイトルは、日本の敗因を端的に表している。1.日米開戦 勝算なし 2.ガダルカナル 学ばざる軍隊 3.電子兵器「カミカゼ」を制す 4.責任なき軍隊 5.レイテに沈んだ大東亜共栄圏 6.外交なき戦争の終末

おすすめ

## 子どもたちに未来を託すために

写真展「地球を生きる子どもたち」の会場には、参加した写真家の思い、写真展を企画した人々の平和への強い願いが詰まっていた。「継承」「生存」「犠牲」とテーマ設定された順路に沿って進み、1930年代にドイツで撮影された「幼児と握手するヒトラー」という写真の前まで来たとき、私は涙がこみ上げてくるのを感じた。幼児のまっすぐな瞳は、言葉を通り越した感情を心に刻み込んだ。それから写真が次々と語り、それをやめない。被爆して3時間後の

広島爆心地近くの悲惨な光景を写した写真や、息絶えた赤ん坊を背負ったまま火葬場のふちに立ちつくす10歳くらいの少年の写真、親が薬物中毒者である子どもたちを取材したロサンゼルスタイムズの特集記事…、数え切れない子どもたちの苦しみをこの写真展は訴えかけていた。「尊厳」に寄せられた文章の冒頭「人間の価値の根底にあるもの、それはひとが互いの尊厳を認め合う精神を持つていることである」という言葉が写真の前で胸にしみた。



GRANSHIP Pen Club

そんな当たり前の事を、我々人類はまだ成し遂げることができていない。ジュリーツァー賞受賞作家 Rush W. Dozier, jr. は著書「Why We HATE」において人間だけが最も危険な感情は「憎悪」であると書いている。「憎しみ」は心の核兵器であり、爆発すれば社会秩序を吹き飛ばし、世界を戦争と集団殺戮の渦に引き入れる」と憎悪の行く末を浮き彫りにしている。彼は「人間は協調し愛する能力を生まれながらに備えているが、それと同時に偏見を抱いたり人を

憎んだりする能力ももっている」とした上で「理性的に系統立てて意志をはたらかせることで、私たちは人を人とも思わない野蛮な傾向に抵抗できるのである」と説いている。

日々自らの理性を磨いていなければならぬ。そのために必要なのは知性だと思ふ。ところで私たちは「日本人として戦争や殺戮に対してどのような考えを持っているか」という問いにいつでも答えられるだろうか。子どもたちの写真1枚1枚の重みを実感し受け止めるということは、自分の言葉を持ち、子どもたちや若者、年長者と対話していくことではないだろうか。時に写真展を経験するということは、対話のきっかけを作ってくれる。

多々良 栄里 (グランシップペンクラブ会員・フォトグラファー)

### 杉浦 圭子



NHKチーフアナウンサー。広島県生まれ。早稲田大学第一文学部、日本文学科卒業、NHK入局。これまでに東京、大阪、広島で勤務。主な担当番組「7時のニュース」「歌謡パレード'88」「紅白歌合戦」「列島リレー」「首都圏ネットワーク」「生活ほっとモーニング」。

### 大竹省二



写真家。'40年、上海の東亜文書院に学ぶ。'42年に応召、'44年、北京の日本大使館報道部付となる。'46年、GHQ広報部嘱託アーニャビル劇場の写真部員となる。'50年にINP通信社に入社、同年フリー。戦後次々と来日した外国人音楽家を撮影し、「世界の音楽家」を発表。その後、女性のポートレート、ヌードなどを主な題材として作品を発表。'71年にはテレビで素人女性のヌードを美しく撮り、話題となる。代表作に『ジャネット』『照る日曇る日』『昭和元禄101人の女』など。'20年、静岡県掛川市(旧・大須賀町)生まれ。

### 遙かなる鏡

撮影・文/大竹省二  
出版社/東京新聞出版局  
血のメーデー、ボツになったスマイル・マッカーサーなど、敗戦の日本を写真と撮影秘話で綴った、もう一つの戦後史。

おすすめ

8/13(土)・14(日) 入場無料/要事前申込

## 講演会

- 8/13 第1部 太平洋戦争とわたし  
～「男たちの大和」「収容所からきた遺書」～  
辺見じゅん(作家)
- 第2部 「ドキュメント太平洋戦争」を語る  
中田整一(大正大学教授) 辺見じゅん(作家)  
山本 肇(グランシップ館長)
- 8/14 第1部 「モンテンルパの夜はふけて」  
～BC級戦犯の釈放に人生賭けた  
昭和の歌姫・渡辺はま子の生涯～  
中田整一(大正大学教授)
- 第2部 「レンズ越しに見た戦後風景」  
～戦禍から復興までの市民生活～  
大竹省二(写真家)  
杉浦圭子(NHKチーフアナウンサー)

■13:00開場 13:30開演 ■会議ホール・風

写真家として、昭和初期の記録 報道写真も多く残し、戦禍から復興までの市民生活を視覚的に切りとつたエピソードが期待できる。戦争を知らない世代に継ぐための「生きた話」をぜひ、この夏、グランシップで体感してほしい。

「ドキュメント太平洋戦争」上映会 ■各回:90名 ■当日会場にて、1時間講演会 ■申し込み方法:往復はがきに、希望日(8月13日・8月14日のいずれか、両日) ■宛先:〒422-8005 静岡県駿河区池田79-4 グランシップ「戦後60年講



谷  
啓

## ジャズは歌う。

「米軍の兵隊の中には、有名なバンドのプレイヤーもいたんです。たとえば、ホーンと吹く。その音がすでにジャズですね。ビブラートをかけると、それが歌うんですよ。こっちは譜面通りに吹くから、面白くも何ともないんです。G1たちのそういう歌い方はかなり勉強になりましたね。」

突然ラジオから聴こえた音楽。

「一生、夢を追いかけてくのもいいかな。そう思っているんですよ。インタビューの終わりの、あのトレードマークのような、やわらかくどこか恥ずかしそうな笑顔。それがトロンボーン豊かな音色に重なった。人生における衝撃的なくつかの出会いを自身の目標にかえて、日本の芸能史上に残した大いなる足跡。けれども、氏はそれを殊更に語ることなく、むしろその笑顔は次の楽しみを探しているようなのだ。」

谷さんといえば、お芝居やテレビではもちろん、トロンボーン奏者としても長く活躍ですが、谷さんの音楽の出会いとは

どのようなものだったのでしょうか。

「それは昭和20年に戦争が終わって、進駐軍がどんどん日本に入って来た頃ですね。ラジオから突然ジャズが流れ出したんですよ。ちょうどWBTRという米軍専用のアメリカ人向けのラジオ局ができて、横浜のゲーリック球場の野球中継やニュースなんかを進駐軍向けにやり始めたんですけれど、そこから流れてきた音楽というのは、かつて聞いたことがないものでしたね。それまでクラシックはラジオからよく流れていましたし、おぶくるが蓄音機でレコードをかけていましたから、よく聴いていたんです。ところがジャズは、戦前はどちらかというと敬遠されていて、戦争が始まったらアメリカの音楽なんてとんでもないと一切入らなくなりました。それが突然耳に入ってきたものだから、凄いショックを受けたんですね。後にフリージャズだのモダンジャズだのいろいろな波が来ましたが、あれほどのショックはなかったですね」

「それでますますご自身でも演奏したい？」

「そう思っちゃったんだね。(笑)もちろん楽器の経験はなかったですよ。ただ、中学校の入学式の時、生徒たちのブラスバンドの演奏があつて、それが凄くよかつた。生で聴いた音楽なんて初めてのようなものだったから、そこですぐブラスバンドにのびれてしまった。しかもそこで見たトロンボーンという楽器をいなぁと思つたわけです。ほかの楽器はなんだか動きがチヨチヨとしていて、トロンボーンは伸びたり縮んだりして、これは目立つぞと。(笑)そんなころ、ジャズが聴こえてきた。音楽的なことはまったくわからなかつたけれども、たとえばブラスバンドはフロンで、バックは堅いリズムだったから、ジャズのリズムや音の重なり方が新鮮だった。凄いもんだなあと。なんでもできるぞという自由な感じもしてね。何が何でもジャズをやりたくなつたんです」

「実際にトロンボーンを手にされたのはいつ頃だったんですか。」

「うーん、いつだったかなあ。そもそも楽器がなかつたんですよ。だから、僕は譜面の見方とポジションの勉強は、竹の棒一本で格好だけでやっていたんです。譜面を見ながら、ポジションをさしていくんですけども、トロンボーンという楽器は、同じポジションで3つの音が出ますから、ほとんど役には立ちませんよね。(笑)しかも実際に楽器で音を出したところで、その音が正しいかどうかもわからないわけです。それでも、やる気になればなんとかなるもんだなあと、思いますね」

「現在、トロンボーン奏者として活躍されている方の中には、谷さんに影響されて始めた方も多いと聞いています。当時、ご自身には、目標とされていた方はいらしたんですか。」

「トニー・ドーシーという世界的に有名なトロンボーン奏者がいましたね。その頃、横浜にジャズのレコードがかかると喫茶店があつたんだけど、そこに行つては待つて、待つて、トニー・ドーシーのレコードを聴いてね。もう一度聞きたいけど、もう一度お願いします」とは言えないような思いおじさんです。(笑)ただ、自分にとって良かったと思うのは、3年生の頃からアルバイトで出ていた進駐軍のクラブですね。というのも、米軍の兵隊の中には、有名なバンドにいたなんていうプレイヤーもいたりしたんです。それで僕らが演奏していると、やっぱりやってみたくなるんですよ。(ハクラリネットを貸してくれと言つたので渡すと、いきなり凄い音を出すわけ



凝り性で知られる谷氏。グレンミラーのフルバンド・サウンドを一人で多重録音したことも。「最近は機械が難しくなつてダメですね。なにせ説明書が嫌いですから(笑)」

「あとで聞くと、テューク・エリントンの何番トロンボーンを吹いていた」とかね。そういう元プレイヤーたちのジャズのフーリングを肌で感じる事ができた。たとえば、ボンと吹く。その音がすでにジャズでね。ヒッライトをかけるのと、それが歌うたんですよ。スターダスト』なんかよくリクエストがきたんですけども、こつちはフーリングがわからないから、譜面通りに吹く。しかし、それだと面白くも何ともないんです。一方、Gーたちが吹くと、これが違う。そついつ歌い方はかなり勉強になりましたね」

「しかし、当時、その演奏力では一流といわれながら、演奏一筋には進まず、やがて音楽とギャグを組み合わせたパフォーマンズへと向かわれるわけですね。」

「WBTRからのジャズとほとんど前後するようになつて、アメリカ映画が入ってきたんですね。音楽映画も西部劇も何でも見ましたが、やっぱりコメディ、これにまたシビれました。それで喜劇をやりたい、さらにジャズもできればと。グループ・チョ・マルクス兄弟の映画を見たときなどは、一人で腹の底から笑いましたね。大勢の中でなんでこんなに大きな声で笑えるんだろうというくらいに笑つた。あのときのようにあたりかまわず笑いたいという思いは、今もまだあるんです」

「伝説のグループ、クレイジー・キャッツはどのように結成されたのですか。」

「学校の仲間たちとやっていて、その後、シャー・プス&フラッツに引張られて、そこでフランク・堺さんと会つたんです。あの人も、面白いことをやりたい」という人でね。当時、アメリカにスパイク・ジョーンズ&シテ・スリッカーズという大編成の面白いバンドがありましたね。有名な曲をピスト





【たに けい】

トロンボーン奏者としてアルバイトでバンドマンを務め、中央大学経済学部在籍中(後に中退)に原信夫に誘われて、1953年シャープス&フラッツに加入。その後、フランキー堺率いるシティ・スリッカーズを経て、56年にクレイジー・キャッツのメンバーとなる。59年スタートのフジテレビ「おどなの漫画」や「シャボン玉ホリデー」に出演。「ガチョーン」「ヒローン」「谷だぁー」のギャグをヒットさせる。ソロ歌手として「愛してタムレ」「あんた誰?」を発売。最近では、ザ・スーパーマーケットのメンバーとしてライブ活動や若手ミュージシャンとのセッションもこなす。映画は66年「クレージーだよ奇想天外」で映画初主演。「釣りバカ日誌」シリーズに出演中。芸名はアメリカの俳優ダニー・ケイからとった。1932年東京生まれ。

ルとかシャッキリとかいろいろ擬音を使っ  
てぶ壊していく。それをやりたいというこ  
とで、名前もそうくりそのままいただいて、  
フランキー堺とステイ・スリッカース。言っ  
てみれば、スパイク・ジョーンズのコピーを日  
劇でやっていたんですけれども、そこにハナ  
肇が見に来て、「これからはこういうジャ  
ズだ」と。それで彼がつくったバンドとい  
うのが、後にクレイジーキャッツとなるハナ肇  
とキューバンキャッツですね。ラテン系の女  
性が二人いて、ギャグなんかもやっていた。  
そこに引張られた後はもう、大っぴらにジャ  
ズも面白いこともやれるようになったから  
うれしくてね。それまでは、ジャズをやる  
なら、バカバカしいことはよせ」と言われて  
ましたから。ただ、フランキー堺と始めたと  
きから、単に面白いただけじゃなくて、音楽  
的にも水準の高いものをやりたいという思  
いはあったんです。アチャカラ音楽をやるん  
だから、音だけはしっかりやろうとね」

この秋のグランシップでのステージは、  
N響のみなさんとの顔合わせですね。  
「トランペット2人、トロンボーン、ホルン、  
チューバの総勢5人によるブラスアンサンブル  
ですね。そこに真梨邑ケイさんが加わるわ  
けです。真梨邑さんは、何ていうんだろっ  
楽器にたとえると、チェロの上、ヴィオラほ  
ど低い声ではないから、セカンドバイオリン  
あたりかな。独特のいい雰囲気を持ってま  
すね。二部構成で、一部はN響のみなさん  
によるクラシックをたっぷり。二部ではみん  
なでジャズあり、ポピュラーあり。クラシッ  
クもいくつかあります。指揮もやりますよ。  
私がアレンジをしているんですけれど、ブ  
ラスアンサンブルで難しいですね。普通はピ  
アノやギター、ベース、ドラムなどが入っ  
てますから、そこにブラス楽器を乗っけるだけ  
いいところがブラスだけだと、バツクにそ  
ういう音がありませんから、鳴らし続けな  
いと途切れてしまうわけ。かといって、吹  
きっぱなしじゃダメですからね。いろいろ  
なスコアを研究してみても、これは大変だ  
と。でも、やってみると、これがまたな  
かなか面白いんですね」

アルンホルン、バイオリン、尺八、スチ  
ールギターなどさまざまな楽器を演奏さ  
れる谷さんにとつて、トロンボーンなら  
ではの魅力と、何をどうやってい  
いますか？

「やっぱりスライドを使って音程をつくる  
仕掛け、それから音域でしょうか。人間の  
声に最も近いともいわれますよね。そ  
ういう魅力は逆に難しさでもありま  
すけれども、これはほかの管楽器じゃ  
できないだろうというふうな、そ  
ういう歌い方を持った楽器だと思  
いますね。戦後、ジャズというもの  
に出会って、いわば一番面白いところ  
を見てやってきました。例えば、あ  
そこまでは自分で行けるだろうか、  
行けるわけじゃないか、という繰り  
返しですね。でも、見たものすべて  
をやりたいと思つた昔とは、今はち  
よっと違つたんです。難しくても、  
できなくても、まあ、それはいい。  
一生夢を追っかけていく。それ  
もいいのか、と思ひ始めていますね」

**10/30** (日) 7/31日チケット発売  
**谷啓とN響の仲間たち**  
PM2:30開場 PM3:00開演  
グランシップ 中ホール・大地  
全席指定 S席 3,000円 A席 2,000円  
学生券／大学生以下 1,500円  
ゲスト／真梨邑ケイ

